

令和5年度 本校児童の学力の現状と課題(各種調査の結果から)

狭山市立狭山台小学校

本年度の全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、調査結果に表れた本校児童の学力の現状をお伝えします。

調査結果は学力の一端ではありますが、その概要についてお知らせすることにより、児童の現状と課題を共有して学校と家庭とが協力して子供たちの学力を伸ばしていきたいと考えます。前学年のくり返しの復習が定着に結びつきます。ご家庭でもよろしくお願いいたします。

1 全国学力・学習状況調査 実施日：令和5年4月18日 実施学年：第6学年 【国語、算数の平均正答率(%)】

	全国	埼玉県	本校
国語	67.2	68	66
算数	62.5	62	59

※本年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、本校の児童の学力は、全体的に全国平均を下回っています。

2 埼玉県学力・学習状況調査 実施日：令和5年5月9日 実施学年：第4、5、6学年

この調査は、児童一人一人の学力や学習の状況を把握するとともに、学力の伸びを把握できるようになっています。小学校4年生から中学校3年生までの学力を12のレベルに分割し、さらに各レベルを3分割し上からA、B、Cとしています。すなわち36の段階(1-C~12-A)で児童一人一人や学校全体の学力のレベルを表しています。学年が上がったらレベルが上がるとは限りません。下がることもありますし、前年度と同じレベルということもあります。

本校の各学年の学力レベルと、5年生と6年生の昨年度からの伸びの状況は以下のとおりです。

【各学年・教科ごとのレベルと昨年度からの伸び(平均)】

		本校	埼玉県	狭山市	学力の伸び	考察
4年	国語	5-A	6-C	6-C	—	県・市を1レベル下回る。
	算数	4-A	5-C	5-C	—	県・市を1レベル下回る。
5年	国語	7-C	7-C	7-B	5 ○	県と同レベルである。学力の伸びは5。
	算数	6-B	6-C	6-C	4 ○	県・市を1レベル上回る。学力の伸びは4。
6年	国語	7-A	7-B	7-B	3 ○	県・市を1レベル上回る。学力の伸びは3。
	算数	6-B	6-B	6-B	1 △	県・市と同レベルである。学力の伸びは1。

「規律ある態度」 80%達成項目数(児童が「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合)

第4学年 11/12(12項目中11項目達成)

話を聞き発表をする = 77.2% (県平均80.8%)

第5学年 8/12(12項目中8項目達成)

靴そろえ = 76.9% (県平均81.8%)

整理整頓 = 78.8% (県平均76.4%)

あいさつ = 76.9% (県平均77.4%)

話を聞き発表をする = 78.8% (県平均77.3%)

第6学年 9/12(12項目中9項目達成)

あいさつ = 72.6% (県平均77.7%)

学習準備 = 76.7% (県平均86.6%)

話を聞き発表をする = 69.9% (県平均74.4%)

3 課題

本校の児童は、基礎的・基本的な学習内容は定着しつつあるが、思考を問う問題を苦手としており、学習したことを生かして課題を解決する活用力に課題があります。自ら課題を見つけたり、進んで課題の解決に向かう取組を生み出したりすることが苦手であると考えられます。また、「規律ある態度」では、「あいさつ」「話を聞き発表をする」などが課題となっています。児童への生活指導の充実が学習にも反映されていくことが結果として表れているので、より充実させていきたいと考えます。

4 課題解決に向けた取組

(1) 授業規律の徹底

- ・「あたり前10項目」の指導と徹底
- ・聞く姿勢【目があう・背すじ・手はひざ】の指導と徹底

(2) 基礎基本の定着

- ・学期ごとのまとめテストによる定着度確認（国・算）
- ・文字・ノートなど丁寧に書かせる指導
- ・習熟の程度に応じた算数科の少人数指導
- ・教科担任制・学年教科交換
- ・見直しの仕方を身に付け、時間いっぱいテストに取り組む態度の育成
- ・授業のユニバーサルデザイン化

(3) 学習意欲・主体的な学習

- ・狭山市学力向上“茶レンジ・プラン”提言6【児童生徒が学びを実感できる授業の展開】に重きを置いた授業への指導改善
- ・【めあて・見通し・学び合い・まとめ・振り返り】を45分間の中で取り入れる授業設計
- ・教師の説明を少なく、児童の活動(思考)の時間を多く
- ・GIGAスクールの推進（一人一台端末の有効活用）
 - 普段使いのICT授業
 - タブレットの毎日の持ち帰り
 - 欠席しても安心して家庭でリモート授業
- ・学校課題研究としての取組

【考える力を身に付け、表現できる児童の育成 ～算数科でICTを活用した授業づくり～】

(4) 家庭学習の定着

- ・学び方を身につけさせる自主学习タイム
- ・「家庭学習の手引き」を基にした家庭学習の見届け（小中一貫教育 10×学年+10分）

(5) 地域人材、外部指導者等の活用と体験学習

- ・SSVC及び学校応援団との連携、SUPの活用（業間に1・2・3年生の計算カード・かけ算九九の聞き取り）
- ・稲作、田んぼプール、SDGs（エコキャップ）、狂言を学ぶ会・・・

本校の学校教育目標の一つである「かしこく」（★進んで考え学び合い勉強好きに）を具現化するために、全教職員で取り組んでいきます。

ご家庭では、「家庭学習の習慣化」や「あいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣、「ゲーム・ネットの使い方」などのデジタル社会での生活習慣の育成に、引き続きご協力をお願いします。